

キーマンに直撃 Vol.30

ミキハウス子育て総研
代表取締役社長 藤田 洋氏

自治体の子育て支援をママ達に情報提供

各業種の認定と合わせて「点」面へのサポート



高知県と協定締結
各種情報をママ達に

「ウェルカムベビーの結婚式場認定も、全国60施設を超え、着々と増えています。同時に、住宅や宿泊施設、さらには神社の認定もスタートするなど、対象となる事業の範囲が拡大しています。その狙いとは。「当社は、年に5回、17万部を配布するハッピー・ノートを発行しています。ミキハウス店舗を始め、小児科や産婦人科といった病院などで配布しており、小さな子供を持つママ達の手元に届けています。現在、子育て支援への取り組みは業界を超えて広がっています。大切なのは、各分野で安心して利用できる環境をママ達に情報提供することであり、だからこそ認定する業種は順次拡大しています。結婚式場、住宅、宿泊施設など、各業種での認定から、今後は自治体の包括的な取り組みも情報提供することで、安心して利用できる環境が、点から面にまで広がっていきます。ママ達が安心して利用できる環境を提供することこそが、当社の理念でもあります。」

—昨年は高知県と協定を締結

ミキハウス子育て総研のウェルカムベビーの結婚式場認定を受けた会場が、全国で60軒を突破した。赤ちゃん連れでも安心して利用できる施設をPRする意味でも、大きな効果をもたらしている。同社では、それ以外にも住宅、宿泊施設や神社などの各分野で認定を行っている。子育て支援の取り組みとして、昨年高知県と協定締結。子育てに優しい様々な制度の情報提供を自治体に対して支援することで注目度がアップしている。点から面への展開とは。

し、子育て支援に関する相互の協力体制を構築しました。現在、自治体への普及を進めているそうですね。

「ハッピー・ノート春号において、各自治体の移住やふるさと納税に関する情報提供をスタートする予定です。現在6自治体の情報提供が決定しており、最終的には10前後にまでなると期待しています。地方創生の観点から、子育てファミリーの移住制度の注目が高まっています。例えば熊本県の山江村の場合、医療費助成や小中学校の給食費助成、さらに村営学習塾の運営などの子育て世代への支援策を設けていました。また子育て世代の移住定住のモニターツアーも開催しており、これまでもハッピー・ノート誌面でママ達に情報提供してきまし

のホテルの認定につながっています。この認定は部屋毎に対応していますが、小さな子供連れの宿泊客が増えるというのは、大抵の場合平日の稼働率が高まるということです。しかも、リピート率も90%以上に繋がっています。認定お宿の増加に伴い、ホテル情報のWEB媒体や旅行エージェントも注目を高めています。旅行エージェントでは、当社の認定施設を掲載した【赤ちゃん歓迎の宿】といった特集を組んでおり、大阪からスタートし、全国にまで拡大している状況です。」

「また、昨年の12月には新たにウェルカムファミリーのスキー場認定を行いました。軽井沢スノーパークを認定しましたが、スキー場内のキッズエリア、食事、トイレなどのチェック項

結婚式場と宿泊施設のダブル認定を促進 子育て夫婦のアニバーサリー需要に訴求

た。こうした情報を的確に子育て世代にアプローチする媒体がなかった中で、本誌の存在を知り活用してもらっています。いい支援策を持ち、移住をアピールしたい自治体は全国に数多くあります。その情報提供のツールとして目を向けてもらっています。」

エージェントも注目するウェルカムベビーのお宿

—結婚式場認定以外の他業種からの注目も高まっているようですが。

「ウェルカムベビーのお宿に関しては、現在認定数も63軒に達しており、今年は80にまで増える予想です。チェーンホテルなどでは、認定を受けることで宿泊稼働率向上の効果が出ており、自然とグループ内の他

目を作成しました。小さい子が安心して雪遊びが出来る、ウェアをレンタルしてくれるといったこともチェックしています。スキー場以外でも、道の駅、キャンプ場などの認定も視野に入れています。子ども連れのママ達の選択肢を増やしていければ。」

—結婚式場認定施設の中にはホテルもあります。お宿とのダブル認定により、更なるメリットも提供できるかと。

「結婚式場認定施設のうち、ホテルは16か所です。そのうちお宿でもダブル認定して

いるのは6軒です。各社の戦略にもよりますが、ダブル認定によって宿泊でも結婚式でも小さな子供を持つママ達の選択肢となることが出来ます。結婚式からスタートするその後のアニバーサリー、例えばお食い初めや、七五三等での利用の可能性が高まるはずですよ。」

「こんなデータがあります。子どもが生まれてから最初に子供連れで宿泊した場所をママ達にアンケートしたところ、1位はホテル、2位は旅館、3位が実家でした。新潟のホテルで聞いたのですが、最近では赤ちゃんを連れて帰省はするものの、実家には泊まらずに、ホテルや旅館などの施設を利用するケースが多いそうです。特に夫の実家に帰省した場合には、ママの気遣いを考慮してそうした選択をするそうです。このようなニーズに対して、自社の施設・サービスをいかにPRできるか。だからこそ、結婚式のみならず、宿泊でのダブル認定によって、総合的に子供連れに優しい施設としての位置付けが明確になるわけです。結婚式場で認定されているホテルの場合には、売店やレストラン、トイレもすでに整っているケースが非常に多い。認定のハードルはそれほど高くはありません。」



▲17万部を発行するHappy-Note